

2024夏休み・セブ島教職インターンシップ

2024年8月25日～9月7日実施

2024年9月13日
明星大学教育学部教育学科
特別支援教員コース3年
加藤春也

【感想】

〈行く前の気持ち〉

留学に対して楽しみであったものの、準備をするのが億劫で仕方なかったです。母親に言われて仕方なくいやいや準備した感じです。例えば海外でスマホを使う際にWi-fiはどうするのか考えた時にe-SIMの準備が必要だと思った母親は携帯ショップに行って話を聞いたり、片っ端からインターネットで検索をかけていたりと私より母親が留学に行くのではないかといい位、一生懸命色々調べてくれました。今度留学に行く時は今回の準備でイメージがついたので、全て一人で準備出来るようにしていきたいと感じました。



〈参加している最中の気持ち〉

正直、当日になるまで海外に行く実感が湧きませんでした。明星大学から2人女子(3年女子学生・2年女子学生)が参加するとお聞きしたものの、2人とも話したことがない・初対面の人で話すのにとっても緊張しました。現地で滞在するホテルに着いて一晩たち、オリエンテーションが始まった時も知らない学生ばかりで2週間本当に仲良く出来るのが不安で仕方ありませんでした。しかし、2日目の自由時間で中部大学の学生に「一緒に回らん?」と私たち明星大学の学生達に声をかけてくれて、昼ご飯を食べにショッピングモールに歩いて行きました。



小学校の教職インターンシップは全部で8日間ありましたが、そのうち皆勤で参加したのは男子学生では私しかいませんでした。なぜなら1週目の土曜日にやったアイスランドホッピングから帰ってきて体調不良になってしまう男子学生が多く、なかなかインターンシップに参加するのが難しい様子だったからです。しかし、最終日は10人全員(男子学生と女子学生5人ずつ)で参加出来たのでほっとしました。フィリピンの小学校は通っている子どもの数が日本より多く、午前と午後の2部制になっており、1クラス40人です。授業は英語かタガログ語(フィリピン

の言語)で話されていたので、1週目は聞き取ることに精一杯でした。しかし、2週目に入ってから100%ではありませんが、何を話そうとしているのかを何とか掴めつつありました。今回は日本文化を伝えるのもあり、折り紙で鶴を作るのと、日本語の挨拶を教えました。鶴に関しては「これでいい?」と聞いてくる子どもが多く、全体で教えることの難しさを感じました。また、算数で小数のわり算を教えた際も教室での喋り声が止まらなくて予定した半分の内容しか進められなかったです。「もっと少ない人数で教えたいな!」と思うと同時に自分の授業力のなさを実感したので、後期の初等教育実習指導の授業で授業力を磨いていきたいと感じました。授業に関しては日本とは違い、前置きをせずに本題を扱う先生が多かった印象です。例えば、算数の授業では日本では問題解決型学習を行っているのに対し、フィリピンではプリントを配って解かせるやり方で授業を進めていました。また、教材も日本の方が豊富であることで教材研究のありがたさや必要性について考えさせられました。フィリピンでは配られたプリントの



内容をひたすらノートに書き写すだけの授業も複数の科目でありました。教科書は一切使用せず、パワーポイントか黒板で授業をしていて、ノートに書いていくスタイルでした。しかし、日本ではノートだけではなくタブレットやロイロノートなどの ICT 機器を活用して授業をしているので、教材教具の種類は日本の方が多様で色々なやり方で授業が出来ることに関して考えさせられました。

また、フィリピンの小学校は2部制(今回私たちが訪ねた学校ならではかもしれないです。)であり、午前中のクラス(6:00~12:00)と午後のクラス(12:00~18:00)に分かれて授業が行われていました。全く違う担任の先生と子どもが学校に来るので、雰囲気は全く異なります。お腹が空かないように9:30と15:30におやつ時間が設けられています。その時間になると家からご飯を持って来て食べている子どもがいれば、担任の先生が持ってきたお菓子を買って食べている子どももいました。日本ではおやつ時間はないので、珍しいと感じました。

最終日には寂しさのあまり、午前中のクラスにいた3人の女の子が泣いてしまいました。かける言葉が見つかりませんでした。なんだか私がいなくなることを寂しがってくれたことがとても嬉しかったです。子ども達みんな可愛くなって思っていたのですが、特に泣いていた3人の女の子は特に可愛かったです。もっと一緒に居たかったな〜と寂しい気持ちでした。お手紙やアクセサリー?も沢山もらって感謝の気持ちでいっぱいです。

2週間一緒に過ごしてきた教職インターンシップの仲間達は本当に仲間想いの素敵な仲間達でした。今回は個人留学ということもあり、同じ大学に通っているのに知らないのが不安でしたが、みんなで声をかけあって、共に頑張ってくれた素敵な仲間達です。孤児院やホテルなど他のインターンシップに行っている学生とも食事に行く機会があったので、とても楽しかったです。

〈帰ってからの気持ち〉

留学に行ってきた良かったな!と感じました。普段の生活から日本とフィリピンの違いを知ることが出来て日本とは違う価値観に触れられて本当に良かったと思いました。

他の大学から来た学生同士で色々な会話が飛び交って私も会話に入りたいなーと思っていましたが、大人数での会話は本当に苦手です。ですが、みんなの楽しい会話を聞くのはとても好きです。今度はどこの国に行こうか、他の国の学校も見てみることで外国の学校の違いを知れるのではないかと感じました。これからも様々な人と関わること、協働することで自分自身を磨いていきたいと思いました。